

# 京都勤労者学園

題字は京都労働学校初代校長、故住谷悦治先生の筆です。

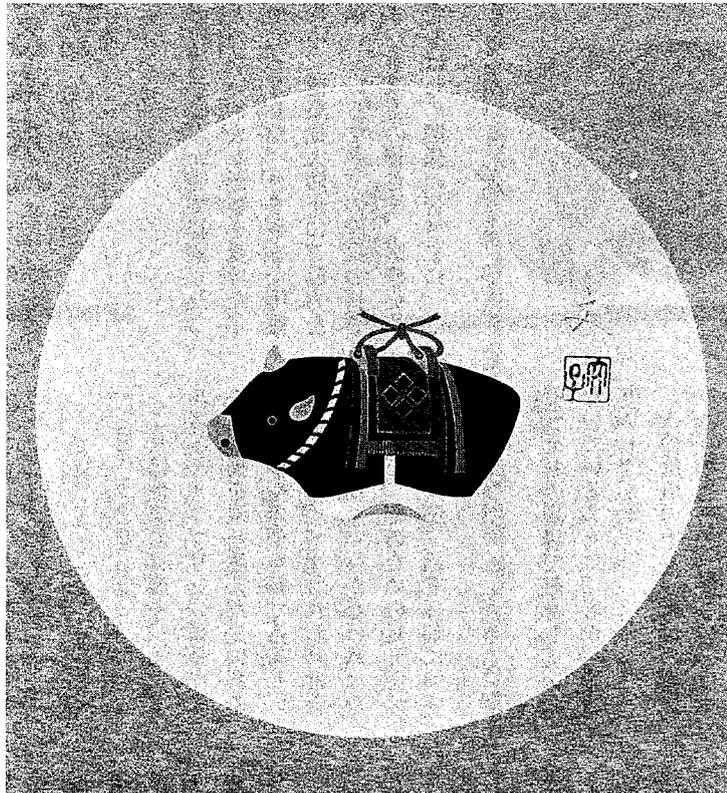
ラポール学園  
(公益社団法人京都勤労者学園)

京都市中京区壬生仙念町30の2  
ラポール京都 3階  
電話 075(801)5925 FAX 075(812)1508  
ホームページ <http://www.labor.or.jp/gakuen>  
e-mail [gakuen@labor.or.jp](mailto:gakuen@labor.or.jp)  
フェイスブック <https://www.facebook.com/kyoto.labor.gakuen>  
ツイッター @LaborGakuen

編集・発行 責任者 市田 佳之  
2021. 1. 1 発行

あけまして  
おめでとーございませす

本年もよろしくお願ひいたします



府市民教室「日本画」教室「毎週・金曜 午前/午後」

中村 文子先生の作品

※次回募集は2月上旬です。

## 二〇二〇年度 役員一覧

学園長	杉山 雅人(京都大学)
専務理事	市田 佳之(京都勤労者学園)
理事	稲森 公嘉(京都大学)
	寺井 基博(同志社大学)
	坂井 岳夫( )
	佐藤 敬二(立命館大学)
	石田賀奈子( )
	小西 一実(連合京都)
	久保誠志郎( )
	櫻井 克彦( )
	坂田 政春(京都総評)
	福島 功( )
	石塚 健一(京都市)
	原 真弓(京都市)
監事	木村 守(税理士)
	大西 芳秀(連合京都)
	山縣 哲也(京都総評)
顧問	西脇 隆俊(京都市知事)
	門川 大作(京都市長)
	望田 幸男(同志社大学名誉教授)
	三村 義夫(元学園専務理事)
	菊池 光造(京都大学名誉教授)
	二場 邦彦(立命館大学名誉教授)
	西井 正弘(京都大学名誉教授)
	宮川 治(元JAM京滋委員長)
	千田 忠男(同志社大学名誉教授)
	西村健一郎(京都大学名誉教授)
	吉田美喜夫(立命館総長)
	田中 行夫(元学園専務理事)
	佐々木真成(高槻労働組合執行委員長)
職員	河原田真弓
	岡 晃子
	船越眞優子
	福岡明日美
	上 瀧 淑子

- P 1 ~ P 3 年頭挨拶
- P 4 京都府労働施策②
- P 5 2020年秋の公開セミナー実施報告・求職者支援事業報告・労働セミナー案内他
- P 6 府市民教室紹介他

年頭の挨拶

京都府知事

西脇 隆俊



夢や希望を持てる未来へ  
上を向いて歩もう

あした

から感謝と敬意を表する次第であります。

人類は長い歴史において幾度となく感染症の脅威にさらされながら、必ず乗り越えてきました。

「下を向いていては、虹を見つめることはできない  
~ You'll never find a rainbow if you're looking down ~」

これは世界の喜劇王、チャールズ・チャップリンの言葉です。

コロナ禍を乗り越えた先にある、未来に夢や希望を持てる新しい京都に向かって、われわれは上を向いて歩んで行かなければなりません。そのための足元固めとして、医療・検査体制につ

ては関係機関の協力のもと、京都府が責任を持って対応してまいります。また、地域経済に活力を取り戻し、府民の皆さまの生活と雇用をしっかりと守ってまいります。その上で、京都府総合計画に掲げた将来像の実現に向けて、府民の皆さまが実感できる積極的な施策を推進し、全庁一丸となつて取り組みをさらに加速させていく所存です。

いよいよ本年には「東京2020オリンピックピック・パラリンピック競技大会」が、翌年には「ワールドマスターズゲームズ2021関西」が開催されます。人類が新型コロナウイルスを克服した証しとして大会を成功に導き、さ

らには2022年度中の文化庁の全面的な移転など、京都の持つ文化の力で、地域の隅々まで光が満ちるように元気な未来を築いてまいります。

本年は丑年。牛の歩みも千里と申すように、一歩一歩、力強く歩みを進め、成功を導く年とされています。地域に子どもたちの笑い声が響き、すべての府民が笑顔で過ごせる京都を実現するため、皆さまと共に歩んでまいりたいと願っております。

皆さまにとりまして、本年が健やかで幸多き一年でありますよう心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

年頭の挨拶

京都市長

門川 大作



コロナ禍を乗り越え、京都の  
明日を共に描きましょう！

新年あけまして、おめでとう  
ございます。

コロナ禍において、感染拡大

防止に多大な御尽力を賜っている市民・事業者の皆様。医療・福祉・子育て支援・教育はじめ、

それぞれの現場で献身していただいている方々に、心から感謝申し上げます。

この危機の中で、市民の皆様へのいのちと健康、暮らしをしっかりと守る。そして、困難な時こそ京都ならではの「地域力」「市民力」をいかし、府市協働、国や経済界等との連携を深め、新たな課題の解決に挑戦する。

昨年は、その決意を新たに、市民ぐるみで行動した一年でした。本市では、コロナ前から市民の健康を支える保健師を段階的

に増員。人口一万人当たり2.3人(政令市平均1.56人)で、一〇〇万人以上の都市トップの体制を確保しておりますが、更に拡充しました。

初の感染者が確認された直後から、全国に先駆けて二十四時間対応の相談窓口を設置。京都府、医師会等と連携し、診療・検査体制も抜本的に拡充するなど、いのちと健康を最優先に「正しく恐れる」対策を進めてまいりました。

さらに影響が長引く中、市会

での御議論を経て、六度にわたる補正予算で、「雇用を支える」中小企業・地域企業の事業継続を徹底支援。人々の「心を潤す」伝統文化・産業や芸術を担う方々の御活動もサポートしてきています。

個人の日常から社会の有り様まで大きく変わるウィズコロナ時代。デジタル化、働き方改革、新たなビジネスモデル。危機をチャンスに、スタートアップの力で社会的課題を解決。京都経済センターを核に、京都がそ

の先頭に立つ。「観光都市」から「観光課題解決先進都市」へ。新たに作成した「京都観光モラル」で、観光客、事業者、市民の皆様とともに感染防止と地域の豊かさにつながる新しい観光モデルをつくる。本年は、そん

な京都の在るべき姿を共々に描き、挑戦と改革を進めてまいります。構造的に脆弱な財政構造、地方交付税の減額、そんな中でも一人ひとりを徹底的に大切にす

る福祉、教育、子育て支援、防災減災などの取組が、「都市特性評価」三年連続一位などの輝かしい実績へとつながりました。しかし、コロナ危機で大幅な税

収減となり、来年度五〇〇億円もの財源が不足する見込み。持続可能な行財政の確立へ、全庁

挙げて取り組みます。そして、「誰一人取り残さない」SDGs、持続可能な社会の実現に向け、感染防止、経済回復、環境対応、社会・市民活動…。これらをしっかりと並立させ、全力を挙げてまいります。



年頭の挨拶

学園長

杉山 雅人



新年明けまして

おめでとーいございます

京都勤労者学園の園員ならびに関係者の皆様、新年明けましておめでとうございます。

七年)に創設され、本年で六五年を迎えました。そして、「勤労者としての意識と教養を高め、その

能力と地位の向上を図る」「勤労者のより安定した職業生活の選択、及び勤労者の仕事と生活

の理想的な調和の実現及び質的向上に寄与する」ことを目的に、勤労者教育に注力してまいりました。このために、労働組合、京

都市・京都府の地方自治体、大学関係者の三者が密接に協力して、京都労働学校や府市民教室などの様々な教育事業の企画と

が、そのさまざまな活動に制限を受け、それらの維持と回復に困難を極めた一年でした。コロナ禍の一日も早い終息と、新たな日々に向けての明るい歩みが始まることを、皆様とともに心から願う次第です。

本学園は昭和三二年(一九五

七)に創設され、本年で六五年を迎えました。そして、「勤労者としての意識と教養を高め、その

能力と地位の向上を図る」「勤労者のより安定した職業生活の選択、及び勤労者の仕事と生活

の理想的な調和の実現及び質的向上に寄与する」ことを目的に、勤労者教育に注力してまいりました。このために、労働組合、京

都市・京都府の地方自治体、大学関係者の三者が密接に協力して、京都労働学校や府市民教室などの様々な教育事業の企画と

実施に務めています。本年もより一層の皆さまのご協力ご支援・ご指示をお願い申し上げます。

さて、冒頭にも述べましたが、新型コロナウイルスの感染拡大によって、本学園も極めて苦しい運営状況にあります。学園長

就任のご挨拶でも述べましたように、昨年の四月・五月は殆んどの事業を休止致しました。六月から一部を再開しましたが、

上半期(春期)の受講者数は、昨年に比べて激減しました。一〇月から始めた下半期(秋期)での京都労働学校・府市民教室

では、感染防止のために受講者数の上限を教室定員の半数としたこともあって、やはり昨年

に比べて受講者数がかなり少ない状況です。しかしながら、有効なワクチンの開発・接種も未だ

確定していない現在では、感染防止に万全を期すために適切な措置を執ることが優先されるのは当然であり、そうした対策を

採りながら、京都労働学校・府市民教室の運営に努めてまいりたいと思います。

このような状況ではありますが、嬉しいことも多々あります。授業の再開を待ち望んでいた方々が多数おられたこと、久しぶりに受講生が教室で再会しコロナ禍のために控えめではあっても心から喜んでおられたこと、多くの方が学園の支援のために協力・寄附をしてくださったこと、などです。これらのことを目に耳にするたびに、本学園が皆様に愛されているのだと強く感じるとともに、感謝の念を大とするばかりです。苦しい現状ではありますが、何とかこれを乗り越え、本学園の継続・発展に向けて、役員・職員は新年に当たって気持ち新たにしているところ

です。

コロナ禍により、本学園での授業だけでなく、日常生活、学業、仕事、余暇、さまざまな

処で対面での活動が制限されたことは私たちに色々なことを気づかせてくれました。先生と、受講生と、友と、仲間と、顔を合わせたの語らいが、眼差しが触れ合いが、私たちにとっていか

かに大切であるか。それらを通していかに多くのものを得ているか。生きるということにどんなに素晴らしい彩を与えてくれるのか。私たちは改めてこれらのことを実感しました。

もちろん、オンラインでの授業や会合にも、その特色・長所・可能性を改めて感じました。受講に当たっての時間と場所という難問の解決の道を示してくれ

たと言います。

令和三年という新しい年を迎え、昨年一年の想いを糧として、更なる充実と発展に努めたいと思います。

皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

京都府労働施策紹介②

京都府テレワーク推進センターを設置 (京都府商工労働観光部人材確保・労働政策課)

働き方改革はもとより、新型コロナウイルス感染症の影響によりテレワークに取り組む企業が増加する中、ICT環境整備や人事評価、社員のメンタルケア等、テレワークの導入・定着に課題を抱える中小企業を支援するため、「京都府テレワーク推進センター」を京都経済センター内に設置し、中小企業の就労環境整備を支援しています。

事業目的

●事業目的

新型コロナウイルス感染症の拡大防止及びBCP(事業継続計画)の観点からテレワーク等多様な働き方を進めようとする中小企業に対し、ICT環境や人事評価、社員のメンタルケアなど、見えてきた課題に対応する支援制度を創設し、「何でもオンライン社会」を加速化。

●事業実施の背景

・新型コロナによりテレワーク等の有効性が社会に広く浸透。

【参考】テレワーク実施率(第1-3回「新型コロナ対策のための全国調査」)

	3月	4月
京都府	7.34%	→ 19.34%
全国	13.99%	→ 26.83%

・テレワーク導入に向けた課題、導入した後の課題が表面化。  
(導入前:テレワークできる業務がない、ICT環境)  
(導入後:人事評価、ストレス、ICT環境)

●事業概要

「京都府テレワーク推進センター」を設置し、府内中小企業のテレワーク導入に向けたICT環境整備や人事評価、社員のメンタルケア等の課題に伴走支援する。

事業内容

- 開 所 令和2年9月1日(火)
- 場 所 京都経済センター3階
- 人員体制 責任者、コンシェルジュ、ITコーディネーター、テレワーク制度整備アドバイザー(社労士等)、営業担当
- 支援内容
  - ・テレワーク業務の洗い出し
  - ・システム導入支援
  - ・テレワークセミナーの実施
  - ・導入後のメンタルケア(専門家派遣)
  - ・人事評価・労務管理支援(専門家派遣) など

テレワークに関するサービスをトータルで支援

テレワーク制度導入支援  
相談・セミナー開催  
業務の洗い出しからシステム導入

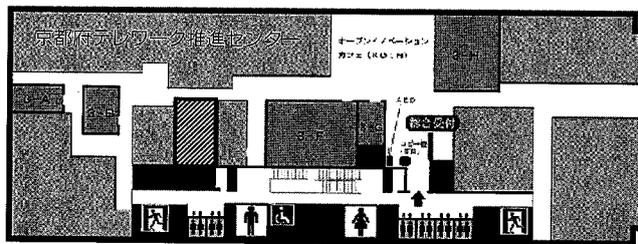
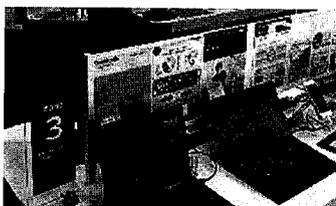
テレワークセミナーの実施  
テレワーク体験を通じて  
導入へのハードルを下げる

京都府テレワーク  
推進センター

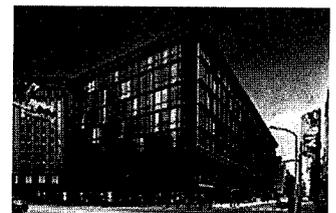
人事評価・労務管理支援  
専門家派遣による支援

在宅社員のメンタルケア  
専門家派遣による社員のケア

京都府テレワーク推進センターの概要



設置場所  
京都経済センター3階



コンシェルジュ

- ・展示機器を実演し、わかりやすく説明
- ・企業の課題を引き出し、専門的な相談対応に展開

ITコーディネーター

- ・環境整備、セキュリティ対策等、技術的な相談対応
- ・業務の洗い出し 等

京都府テレワーク推進センター  
((KYOTO))  
TELEWORK PROMOTION CENTER

メンタルヘルスサポートのための専門家派遣

職員研修のための臨床心理士派遣 等

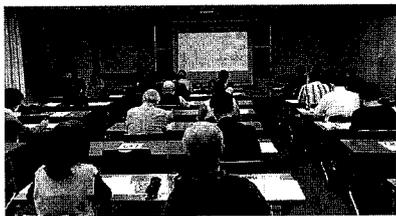
セミナー・イベントによる啓発

テレワーク導入セミナー、体感イベント等を実施

テレワーク制度整備アドバイザー

制度の整備、労務管理等法務的な相談対応  
国、府で実施する補助制度の活用支援 等

オンラインでの相談にも対応



10月7日(水)、京都大学名誉教授・京都橋大学教授の岡田知弘氏を講師にお招きし、実施しました。

今回は、新型コロナウイルス感染症予防対策を徹底する中で開催。当日も、コロナ禍による現状の分析を知りたい方、感染症を恐れるだけでなく、共に生きる新しい価値を見出したい方など、テーマや講師に関心を持たれた40代から70代までの30名の皆様に参加をいただきました。

セミナーでは、岡田先生が専門とされる地域経済学の観点から、

コロナ禍での広範な問題点の分析調査・研究・論説が述べられました。そして、感染症拡大により打撃を受けた住民の社会生活の中で、「公共」や基礎自治体が行える役割、国の政策にばかり目を向けるのではなく、自治体・地域などのもう少し小さな単位での取り組みを例を挙げてわかりやすく解説されました。

特に、感染症を「災害」と捉えて対策をとる発想、自治体の地域内経済循環モデルの発想が大変興味深く、アンケートでは多くの方が「非常に参考になった」「参考になった」と回答されていました。

2020年秋の公開セミナー開催報告

コロナとどう向き合おうか

—新しい仕事と社会のあり方を考える—

ご寄付 御礼

2020年度は「新型コロナウイルス感染拡大防止」による休講措置のため、学園は大きく収入減となりました。ここでWebレッスンの環境整備に向け広くご寄付をお願いしております。

今日時点で各労働組合様はじめ講師の先生方、受講者の皆様方から多くのご厚志を賜り、厚く御礼申し上げます。

まだまだ厳しい状況ではございますが、今後も勤労者を始め幅広い市民の皆様「生涯学習」の場として努力してまいりますので、引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

2020年度求職者支援訓練について

2020年度は3回の実施を予定していましたが、6月生については一旦開講申請を行ったものの、2月頃からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、4月に申請を取り下げました。

また、11月生についても、7月に開講申請をしましたが、申請後に再び感染者数が増加傾向に転じたため、8月に申請を取り下げました。

現在のところ、同感染症が収束する状況にはないと考えられるため、最終的に今年度の訓練開講は全て見送ることとしました。

春季 労働関連法セミナー

『withコロナ時代』の社会保障と働き方  
～地域共生社会とソーシャルワーカーの役割～

第1回：3月10日(水)

「貧困」をどう捉えるか—ソーシャルワークの視点から

講師：中野 加奈子 (大谷大学・社会福祉学)

第2回：3月17日(水)

権利擁護に求められるソーシャルワーク専門職の役割

講師：五百木 孝行 (社会福祉士・一般社団法人へいあん後見福祉ネットワーク代表理事)

第3回：3月24日(水)

これからの働き方と社会保障、社会保険労務士の役割

講師：小林 さゆり (社会保険労務士)

いずれも午後6時30分～午後8時30分

会場：ラポール学園 資料代：500円

主催：ラポール学園 / 認定NPO法人あったかサポート

参加申込みは、あったかサポート・ラポール学園ホームページのWebフォームから。

又は、FAXまたはメールでセミナー名・セミナー番号・郵便番号・住所・氏名・電話番号をお知らせください。

お申込み・お問合せ：TEL075-352-2640 FAX075-352-2646 E-mail: attaka-support@r6.dion.ne.jp

